

第24回 (H25.夏) 佐鳴湖水質調査の結果



平成25年10月 清流ルネッサンスII 佐鳴湖地域協議会

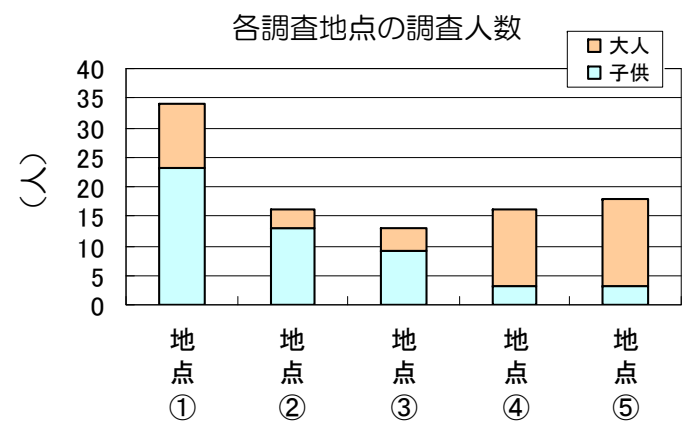
佐鳴湖では、住民の方に協力いただき、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算24回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

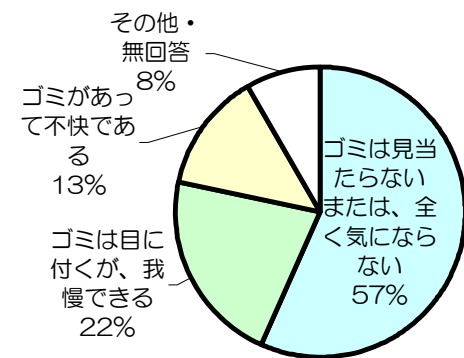
視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH ₄ -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



調査日時：平成25年8月17日(土) 9時~12時
 参加人数：52名 (大人26人、子供26人)
 調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定

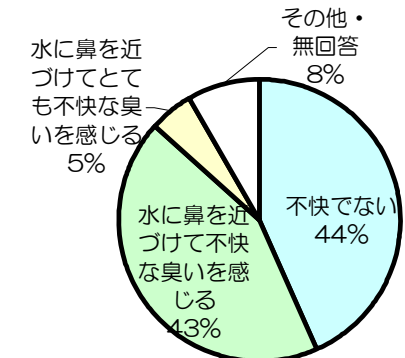


アンケート調査の結果



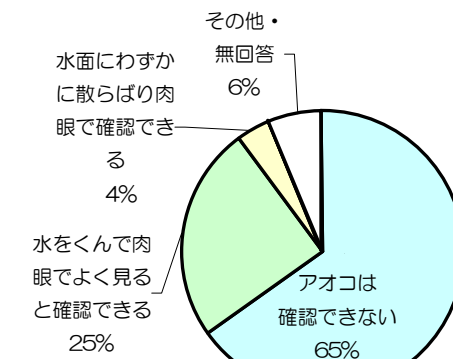
ゴミの量

57%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



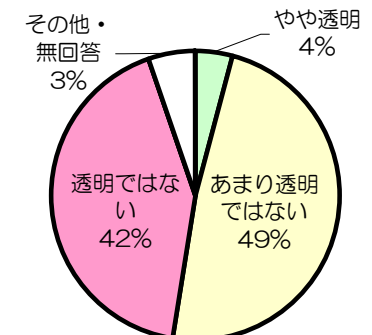
水のおいしさ

水のおいさが「不快でない」と「不快」がほぼ同数となりました。



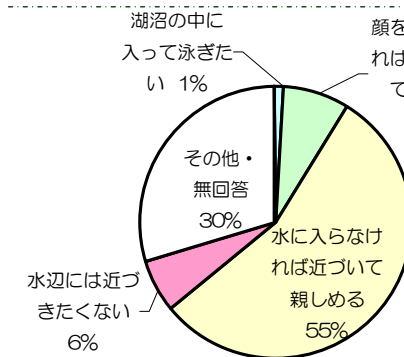
アオコの発生

「アオコは確認できない」という回答が過半数を占めました。



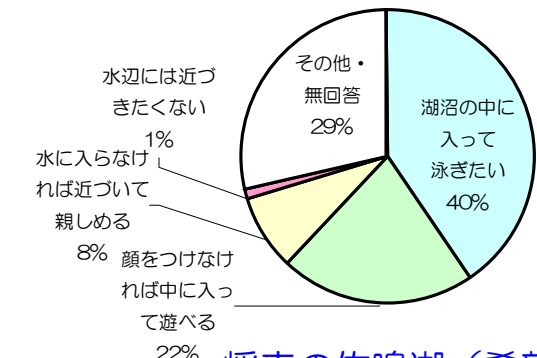
水の透明さ

「透明ではない」「あまり透明ではない」という回答が合わせて約90%でした。



佐鳴湖の水を見て (現状)

「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が55%で最も多くなりました。



将来の佐鳴湖 (希望)

将来の希望として「水の中に入って泳ぎたい」という回答が40%ありました。

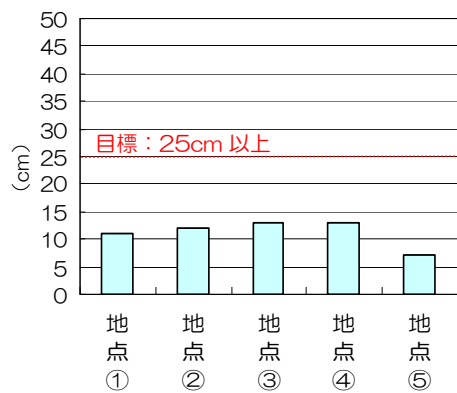
生物調査の結果

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは②③⑤のあわせて3地点です。

甲殻類はテナガエビ、スジエビ、ミゾレヌマエビ、モクズガニなどがとれました。魚類はマハゼやコトヒキ（幼魚）など、汽水にすむ魚が多く見られました。

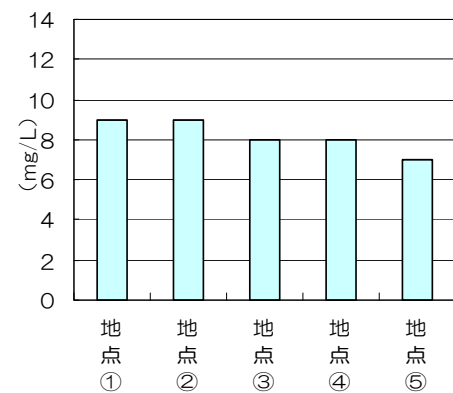


簡易水質調査の結果



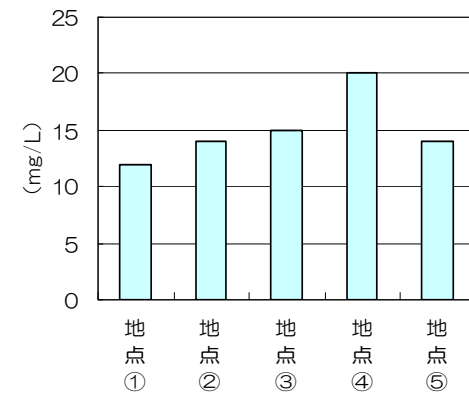
透視度

透視度（水の透明さの程度）は7～13cmで全体的に低くなりました。



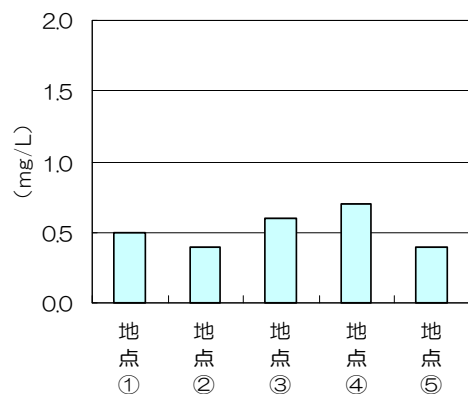
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で7～9mg/Lでした。



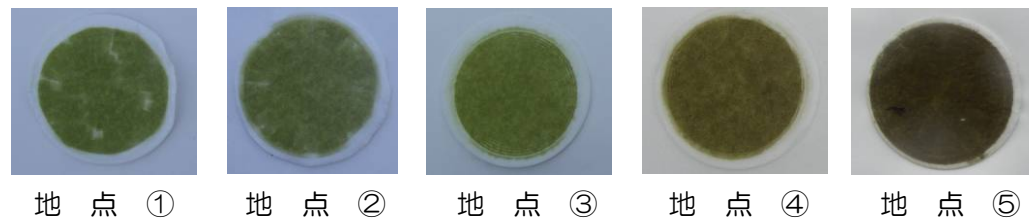
化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で12～20mg/Lでした。



アンモニア態窒素 (NH₄-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で0.4～0.7mg/Lでした。



クロロフィルの簡易確認

注射筒とろ紙を使って、200mLの水をろ過しました。ろ紙の色は緑色となり、色見本の番号はNo.7が最も近い色として選ばれました。



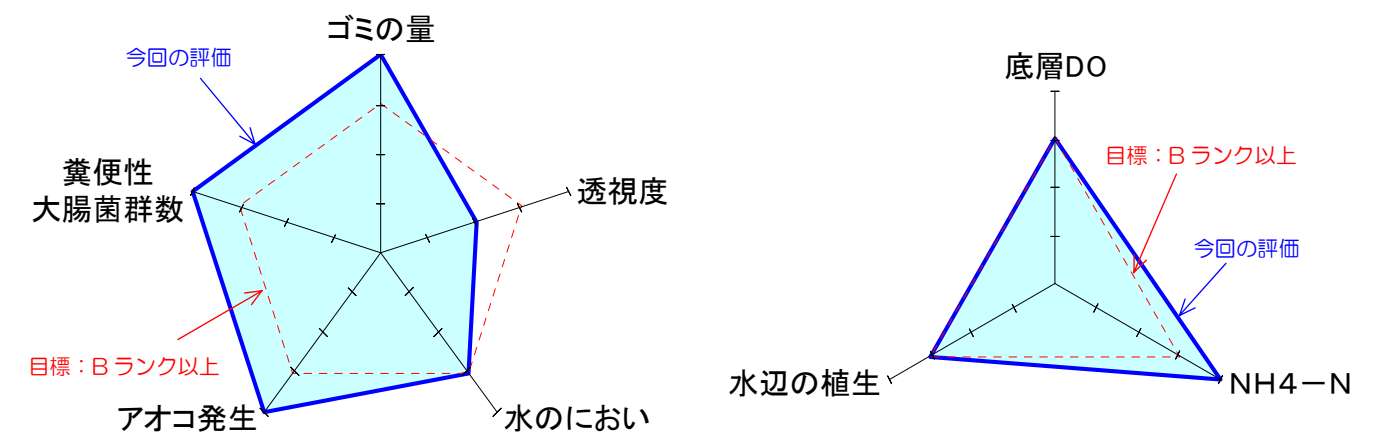
河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィルa (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH ₄ -N (mg/L)
調査地点①	14	35.6	90.7	18	8.8	10.8	<0.01
調査地点②	15	33.0	76.8	61	7.9	9.3	0.03
調査地点③	8	27.0	63.5	50	5.2	9.0	0.08
調査地点④	34	40.8	60.0	10	6.3	10.5	0.13
調査地点⑤	73	65.4	69.9	64	6.1	14.2	0.14

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH₄-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成22年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した5地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目でBランク以上になることです。今回は「水のおい」「底層DO」「水辺の植生」がBランク、「透視度」がCランクとなりました。Aランクの数は、のべ40項目（8項目×5地点）のうち25項目、全体の63%でした。



おわりに 今回の夏の調査では、暑い中にもかかわらず、たくさんの方々にご協力いただき、ありがとうございました。秋は、佐鳴湖でとれたウナギの試食を行う予定です。また皆様のご参加をお待ちしています！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：清流ルネッサンスⅡ佐鳴湖地域協議会

（事務局）静岡県浜松土木事務所 企画検査課（053-458-7266）